

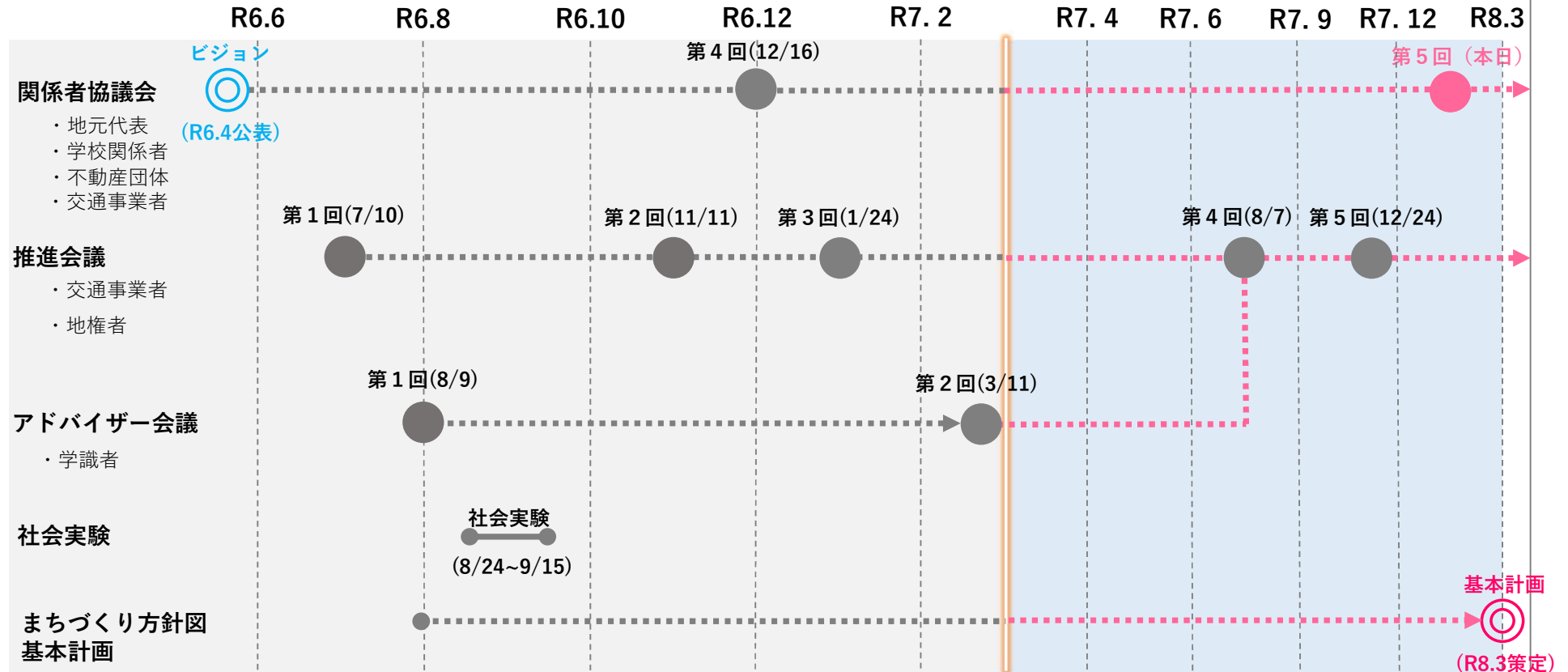
第5回 南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 資料

- 1 これまでの振り返りについて
- 2 令和7年度からの取組について
- 3 南富山駅周辺まちづくり基本計画（案）について（別冊）

第5回 南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 資料

1 これまでの振り返り

(1) 関係者協議会等の実績と予定



▲社会実験



▲第4回関係者協議会



▲第3回推進会議



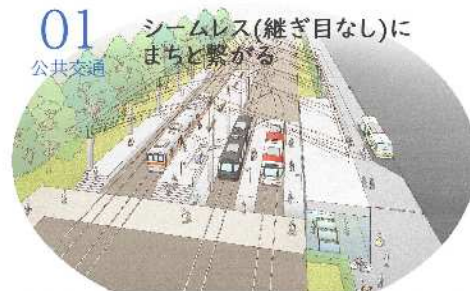
▲第2回アドバイザー会議

(2) 南富山駅周辺まちづくりビジョン（令和6年4月公表）

南富山駅周辺まちづくりビジョン ～エリアコンセプトと5つの未来像～

エキ、マチ、ジブン。 南富山で始める。南富山から始まる。

南富山は路面電車や鉄道、バスなどの多様な公共交通が交わるまち。市内有数の文教地区で、多くの子供や学生の姿が見えるまち。朝夕の通勤や通学、休日の家族とのお出かけ、入学と卒業の出会いや別れ…毎日、毎週、毎年の暮らしの“始まり”が南富山にある。これまで南富山で育まれてきた、みんなの暮らしの重なりは、まちに「懐かしさ」と「新しさ」という彩りを与えてきた。これからの未来に向けても、駅、まち、自分の“起点”を南富山にしていく。富山の新たな地域性と価値が生まれるまちを目指して。



01 シームレス(継ぎ目なし)に
まちと繋がる
公共交通

市内電車や鉄道、路線バスなどの結節力と利便性を高め、様々な場所にアクセスしやすい環境の実現を目指します。

望まれる
取組み・活動

- ①公共交通結節機能の変化
- ②利用しやすい駐輪・自転車環境
- ③待合環境の向上
- ④公共交通と地域の連携促進



02 誰もが、どこへでも
安心して歩くことができる
移動

十分な幅員や段差のない歩行空間がつながり、自動車にとっても安全に移動できる環境の実現を目指します。

望まれる
取組み・活動

- ①バリアフリーな歩行空間
- ②周辺道路とのネットワーク
- ③自動車や自転車との共存
- ④安全で快適な通行の啓発



03 住みたい、住み続けたい
安全で豊かな環境が整っている
居住環境

安全に住み続けられるインフラが整い、身近な自然や地域との繋がりが感じられる環境の実現を目指します。

望まれる
取組み・活動

- ①緊急時にも安全な都市基盤
- ②身近な自然を感じられる空間
- ③住民同士の豊かな繋がりが
- ④コミュニティを支える仕組み



04 まちの中に自分らしく過ごせる
場所や目的がある
暮らし

日常の中に、誰もがいつでも居られる空間や立ち寄りたくなる場所があり、出掛けたくなる環境の実現を目指します。

望まれる
取組み・活動

- ①日常の生活で使える諸施設
- ②外と繋がる開かれた空間
- ③外と繋がる開かれた空間
- ④魅力を持続できる運営体制



05 新しい学びやチャレンジに
触れる、できる、したくなる
付加価値

多様な世代や主体が協働し、南富山のポテンシャルを活かした新しい価値や意欲が生まれる環境の実現を目指します。

望まれる
取組み・活動

- ①多目的な利用ができる空間
- ②地域内不動産の有効活用
- ③教育機関や企業等との連携
- ④南富山を伝える情報発信

第5回 南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 資料

(3) 第4回関係者協議会（R6.12.16）での主なご意見

地域住民・まちづくり団体

通過交通を減らすことやコミバス・歩行者の回遊といった交通環境と利用者の本質を捉えた機能配置

- ・社会実験では交通量の変化がなかったということだが、通過交通を積極的に減らすことも検討すべきではないか。
- ・グリーンインフラの考え方は重要な視点である。駅前の滞留空間づくりに向けて、大町公園との用途交換なども検討してみてはどうか。
- ・滞留空間に関しては、家庭でも学校でもないサードプレイスが求められている。高校生から、カフェが欲しいという意見を聞くが、コーヒーが買えることが重要ではなく、友達と過ごす時間や会話をしたいということが本質であるとする。
- ・交通結節点としての問題解消が最優先で、核になるものが必要。また、コミバスや歩いて駅へ向かう方など、広域的な循環が生まれると良い。
- ・現状でも逆走する車両が相当数存在するため、一方通行で周遊する形状はいかがかと思う。

学校関係者

緑を通した愛着づくりや滞留空間を介した地域との繋がりが子どもにとって良い環境となる

- ・富山高校では一部施設更新があるが、太郎丸の柱に手を加える予定はなく、また、緑のある通りや空間はまちに愛着を沸かせるものとする。
- ・社会実験において安全な環境が整ったことは学校としても有難いこと。また、高齢者にとってもカフェなどの滞留場所は顔を合わせる場としていいのでは。
- ・南富山駅を中心に公共交通がこれだけ繋がっていることは教職員も認識していないと思う。進路指導や公共交通利用の面でも情報を伝えることが重要で、子供達の安全管理の面でも活用したい。
- ・人通りがあるところに滞留空間があれば、地域の方々に見守っていただきながら子供達が触れ合う機会になり、地域と子どもの繋がりを生む場になれば。

不動産団体

これまでの富山南部地域の発展と現在の需給を踏まえた居住誘導と北西方面に繋がるアクセス道路

- ・南富山駅利用においては笹津方面に注目している。15～20年前に富山南部で宅地開発が進んだため、現在、その子供達が利用の中心となっている。
- ・それを踏まえて、今後の高齢化や少子化とバランスをとって南富山駅をどう捉えるかという視点が必要。
- ・滞留空間には無料Wi-Fiがあって、イベントができる場所を提供することや、高校再編も踏まえた南富山駅のあり様も考えていただきたい。
- ・富山駅から南富山駅間では供給より、需要の方が多いため、建蔽率や容積率の緩和などをしながら、居住を誘導していく視点もいるのではないか。
- ・安全対策のために交通量を減らすのであれば、都市計画道路も含めた区画整理などの施策が必要で、特に北西方面に繋がる道路が不足している。

交通事業者

駅舎の老朽化の改善を図りつつ、自治体と連携した鉄道線の再構築を推進

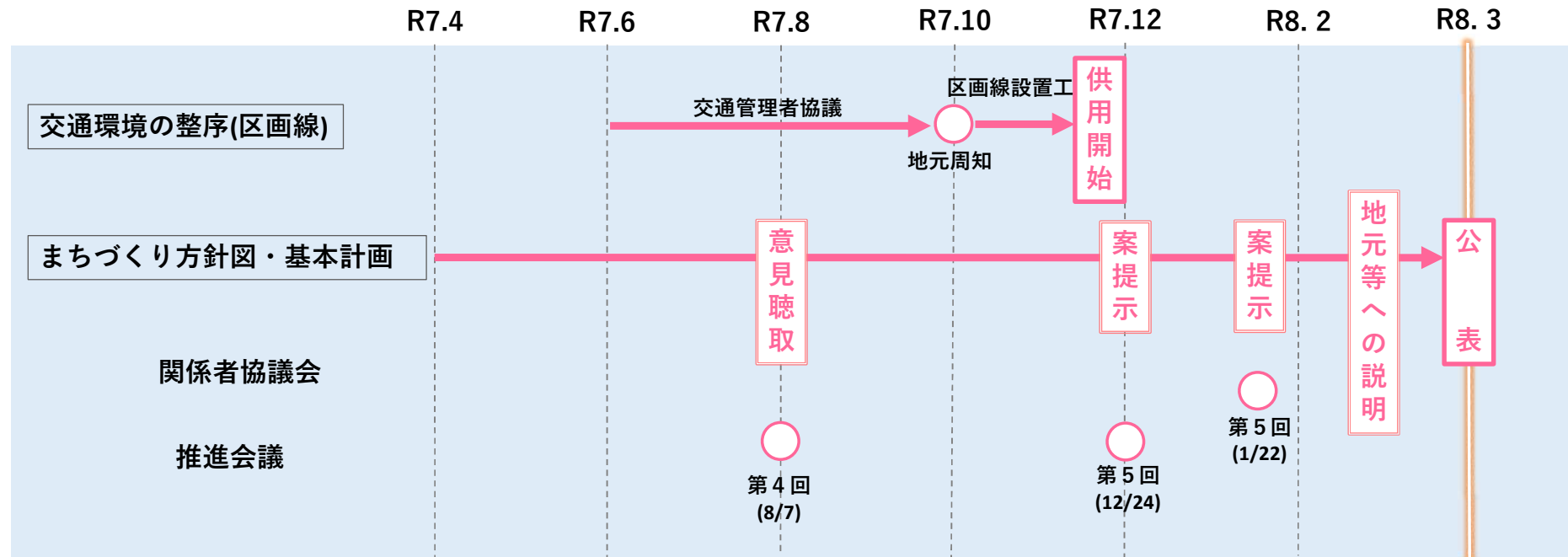
- ・駅舎は昭和40年代はじめの建物であり、能登半島地震の際には何とか持ちこたえたが、老朽化が顕著である。
- ・駅舎の建替えに合わせて、地域住民をはじめ、利用者が安心・快適に公共交通を利用できるような駅づくりをしていきたい。
- ・公共交通のあり方については、鉄道線の再構築に向けて、沿線自治体と協議を進めているところである。
- ・バス路線の再編や迂回等については、バス運転手不足や労働時間の問題に関連し、富山市に提案した経緯がある。
- ・一方で、バスと鉄道線、軌道線の乗継ができるようになることが利便性の向上に繋がるのか、既存の利用者への影響はどうかなど、慎重に検討し、引き続き、意見交換をさせていただきたい。

第5回 南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 資料

2 令和7年度からの取組について

(1) 令和7年度取組

- ・社会実験（R6）を踏まえた区画線設置による交通環境の整序（R7.11） ▶ 実装（R7.11.27）
- ・まちづくり方針図を含む南富山駅周辺まちづくり基本計画の策定（R8.3）
- ・南富山まちづくりを考える会や堀川小学校、堀川中学校、いずみ高校等との連携



(2) 令和8年度以降の取組

- ・ビジョンや基本計画の具体化に向けた調査・検討及び関係者との合意形成
- ・上記進捗に合わせ、関係者協議会等において情報共有や意見聴取

第5回 南富山駅周辺まちづくり関係者協議会 資料

(3) 南富山駅前道路の交通安全整序

区画線の整備により自動車の走行空間を明確化し、交通環境の改善を図った。▶ **引き続き、交通環境を注視し、検討・改善を進める**

【効果】

- ①自動車の迷走を解消(走行車線と降車場の分離)
- ②乗車列が自動車と接触する危険性の改善
- ③南富山駅前の歩行空間の確保

【課題】

- ・自転車の走行空間が不明確
- ・南側から駅を利用する歩行者の歩行空間が不明確

